

みつるぎ応援団V

榎本16町会ネットワーク
民生委員
藤澤 伸子さん

新企画！苦言あり期待あり

みつるぎ里の「これから」を一緒に考える

**「お世話になっている地域の
手助けをしたい」**



「もう介護の仕事はしないかなあと
思っ、資格更新はしてなかったんで
すよ。」と藤澤さん。5年間、ケアプラ
ンセンターで居宅のケアマネジャーと
して勤めた。この地に暮らして約40年、
2人の子供は榎本小、今津中の卒業
生で、PTAのOB会の繋がりは現在も
続く。そんな暮らしの中、3ヶ月ほど前、
彌重管理者からこんなオファー『ちょ
っと手伝ってできませんか、ご飯作ったり
料理は得意！そんな軽い気持ちで引き受けて
・なのに、ケアマネ再研修を受け
ることになりました笑』藤澤さんのみつるぎの里との関わり
は10年前に遡る。開設のための準備委員会に加わり、みつ
るぎ誕生までの道のりを知る。みつるぎのフロアには地域や
商店で活躍されていた顔見知りの方も。そんな方々が実際ど
のように生活してこられたのか、その姿の記憶は大きな財産。
「一生懸命、地域に暮らしていた先輩方が、今ココでゆったり
と過ごしておられる。私たちを支えてくださった皆さんを、今
度は地域の一員として支えたい。」※10月に非常勤職員として
入職、地域役職兼務。現場サポート及び地域担当として榎本
住民の介護相談などを担う。

「地域の人が地域のお年寄りをみる」これは、みつるぎの里
の真髄。藤澤さんが加わり、また目標に一步近づいたと彌重管
理者は話す。

なぜ、ここ榎本にみつるぎの里が必要なのか

管理者・彌重卓志がひもとく！
みつるぎの里・その使命 Vol.14



『10年の歩みに思うこと』

みつるぎの里は、来年5月に
10周年を迎える。

「10年ひと昔」とはよく言わ
れるが、あれから10年という歳
月が流れたのかと思うと、胸に込み上げるものがある。

10年前、初めてこの榎本の地に来たときのことを今で
もよく覚えている。地域の取り組みを知れば知るほど、ま
るで頭をガツンと殴られたような衝撃を受けた。

夏休みに学校が映画館に変わる「星空劇場」、地域の人
が毎月集まる井戸端会議「あいより」、町会対抗の大運動
会（私の地域ではすでに姿を消していたもの）、音楽サロ
ン、地域の子ども部屋「寺子屋」、当時はまだ珍しかった
青色防犯パトロール活動、そして「かたづけ・たい」。ど
れも地域の人たち自身が動き、支え合い、楽しみ合う、生
きた活動ばかりだった。

「なんてパワーのある地域なんだろう。」

その地域の人たちと共に、このみつるぎの里の運営に
携わり、関係を紡いでいくことに、私はワクワクしていた。

みつるぎの里は、『老いても地域で暮らし続ける』とい
う理念を掲げ、地域が主体となって始めた介護施設であ
る。管理者として、私は常に「地域が介護施設を運営する
意味」を問い続けてきた。

そして10周年を迎える今、その答えの輪郭がようやく見
えてきたように思う。

当時、開設に関わった法人理事をはじめ協力者の皆さ
んが抱いていた思いと、この10年で私が見つけてきた答
えを、照らし合わせるときが来た。その答え合わせを経て、
みつるぎの里は次の10年へと歩みを進めていく。

地域と共に、地域らしく。

その思いを胸に、また新たな一步を踏み出したい。

お友だちの顔を発見！ドラマの
ワンシーンみたいなこの表情。以
前から親しくされていた様です。



～ご縁。みつるぎで復活～



60年来のお付き合い!!「人生の兄
弟や」ご近所に住んでいても疎遠
になりがちなこともあり。5年ぶり。

係長のつばやき (15)

**情熱を持って生きる。
介護係長・米山 卓**



「情熱」なんとあやふやで、簡単なよ
うで難解で、難解なようで簡単な言葉
だろうかと思う。

「情熱」がある人が仕事ができるとは
限らない。「情熱」がある人が皆から愛
されるかと言えば、そうとも限らない。
では、熱血漢のような人が「情熱」が

あるのか。物静かで淡々としているような人は「情熱」が無いのか。
今僕が感じるの、「情熱」とは「生き方」だと思う。

自分の軸や芯をもって、自分が不思議だと思う事、大事なもの
を守ろうとする意思を貫き通そうとすると、「情熱」が必ず必
要になる気がする――各々の「情熱」が渦巻くみつるぎの里。

自分自身の力量なん
てどうだっていい。僕
は必ず、みつるぎの里
を納得するまで守り通
していきたい。

小規模多機能型居宅介護



**救護研修&訓練
災害避難**



この日は全国一斉緊
急地震速報訓練の
日！避難（訓練）に備
えて担架とおんぶ紐の使い方講座を開催！
スタッフ、力合わせて素早くしっかり安全
に！一時避難で福祉会館向かいの駐車場へ。



**介護
あるある！**

▶普段や介護の生活から「それ、あるある!!」を
公益社団法人全国有料老人ホーム協会の過去の
シルバー川柳賞作品を引用してご紹介いたします!!

- 定年後 悠々自適は 妻でした
- 老犬が 黙って俺の 愚痴を聞く
- よく喋る 家電と妻に 囲まれる
- 備蓄米 孫が平らげ 帰ってく
- 寒く無い やさしい妻が 猫に聞く

